

「全国学力・学習状況調査」の状況をお知らせします

北斗市教育委員会

今年、4月24日に北斗市の全ての小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の状況をお知らせします。

【小学校】全国との比較
調査参加児童数：469名
本市は、全国平均と比較し、国語Aは0.1、算数Aは1.4、ポイント上回りました。

化と国語の特質に関する事項」で全国平均を上回っています。
話しこと・聞くこと
◆選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものを選択する設問7では、46.1%と全国平均より2.9ポイント上回り

◆これまで課題とされていた「目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書く」を問う設問4は、正答率が42.0%でした。H20年(小6年)の課題の改善状況をみる設問でもあり、今年度も2.9ポイント下回り

◆広告を読み編集の特徴を捉える設問5や俳句の情景を捉える設問6では、全国平均を上回り小5・6年での学習内容の定着がみられます。

◆漢字を正しく読む問題では、「券」99.8%、「採集」76.8%全国平均を上回り、H21年の課題の改善がみられます。

◆漢字の書き取り三問中の二問「やく」74.2%、「むらさき」62.0%で全国平均を上回り、H19年の課題の改善がみられます。

◆ことわざの意味を理解しているかを問う設問2は、3.4年の学習内容ですが、「石の上にも

三年」は60.1%、「急がば回れ」が68.9%と全国平均を11.0、17.2ポイント下回り、課題が残る結果となりました。

◆今年度は、短文で書く問題が全国平均と同様かそれを上回り、改善の様子がみられます。

◆川本さんの助言について説明を書く設問1は、50.3%で全国平均を1.8ポイント上回り、今年度も同様か課題が

◆下の設問2・3は、目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことが出来るか

◆設問3は、推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由、それぞれの本文や文章の読み方の違いを捉えて具体的に記述する設問です。

◆設問2では、四捨五入で数を適切に処理する方法の理解に課題があります。

◆単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を問う設問4は、52.7%で全国平均を

◆「自分の考えをまとめて決めた」で、自分の考えをまとめて決めた字数で表現すること、に課題が残ります。

どうかをみる問題です。

三【読書会での町田さんと山下さんの意見】
町田さん：「4まとも」には、題名「打ち上げ花火の伝説」に合う内容を書いたほうが良いと思うわ。書き出した文(打ち上げ花火は...伝説といえます。)は、「歴史」に注目し、「1打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめていねわ。
山下さん：それに書く内容は、「歴史」の打ち上げ花火に注目し、「2打ち上げ花火の歴史」と「3花火師の小野さんの声」の「イ 作り出す伝説」の中を書かれています。書き出した文は、打ち上げ花火の歴史、打ち上げるときはくふうを取り上げて書いたほうが良いわ。そして、最後に考えたこととまとめて書いてもらうかな。

◆数と計算
◆整数、小数、分数の四則計算で過去の調査結果と比較して、正答率が全国平均と同様か上回る傾向がみられます。

◆「数と計算」「量と測定」「図形」が上回る高い結果となりました。

◆「数と計算」
◆整数、小数、分数の四則計算で過去の調査結果と比較して、正答率が全国平均と同様か上回る傾向がみられます。

◆「数と計算」
◆整数、小数、分数の四則計算で過去の調査結果と比較して、正答率が全国平均と同様か上回る傾向がみられます。

日常の授業や宿題の中で、書いてまとめる活動や「〇〇字以上、△△以内」にまとめて「文章中の言葉を使って」など、示された条件に応じて書く能力を高める学習が必要です。
10問中3問の正答率が全国平均を上回り、全国との差が前年度より縮まってきています。
【算数A 主として知識】
◆全国平均正答率77.2%
学力の定着度がすべての領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」で全国平均と同様か上回る高い結果となりました。

1㎡当たりの人数と一人当たり

4 AとBの2つのシートがあります。

A

6㎡

B

5㎡

下の表はシートの上に乗っている人数とシートの面積を表しています。

すわっている人数とシートの面積	
	人数(人)
A	12
B	8

どちらのシートのほうがこんでいるか調べるために、下の計算をしています。

A  $12 \div 6 = 2$   
 B  $8 \div 5 = 1.6$

上の計算からどのようなことがわかりますか、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1. 1㎡あたりの人数は2人と1.6人なので、Aのほうが

の面積との違いを理解できるよ  
 う指導していく必要があります。

◆図形

◆合同な三角形をかいたために必  
 要な条件を問う設問6は、正答  
 率59.3%で全国平均を1.4  
 ポイント下回っています。

◆円柱について、底面の円周の  
 長さを求める式と答えを問う設  
 問7(2)は、正答率65.0%で全  
 国平均を1.3ポイント下回  
 ります。

◆数量関係

◆百分率の意味を理解している  
 かをみる設問8(1)は78.9%、  
 (2)は78.5%とともに全国平均  
 を1.6・2.2ポイント上回  
 り正答率は高い状況にあります。  
 ◆棒グラフの目盛りの数値に着  
 目して最大値を読み取る設問9  
 は、90.0%で全国平均を4.  
 3ポイント上回っています。  
 小学校から中学校まで9年間  
 を見通す指導の充実が必要で  
 す。

【算数B 主として活用】

◆全国平均正答率58.4%  
 学力の定着度が全国平均と比

較して、「数と計算」は1.7ポ  
 イント上回り、「図形・数量関係」  
 で同様、「量と測定」はほぼ同様  
 (下位)を示しています。

◆数と計算

◆示された三つの処理の仕方か  
 ら、最も合理的なものを選択し、  
 その理由を記述する設問1(2)は、  
 正答率が54.2%で全国平均を  
 3.4ポイント上回っています。

◆量と測定

◆表から数値を適切に切り出し  
 て、二つの数量の関係が比例の  
 関係ではないことを数と言葉を  
 用いて記述する設問2(3)は、正  
 答率は32.6%で全国平均より  
 2.6ポイント低く、課題が残  
 る結果となりました。

◆左の設問4(1)は、単位量当た

ト下回る低い状況にあります。  
 示された表や図を基に、その  
 わけを式や言葉で書く記述式問  
 題に課題が残ります。

◆数量関係

◆設問5(2)は、帯グラフに示さ  
 れた割合と基準量の変化を読み  
 取り、その理由を式と言葉で書  
 く記述式問題でも低い状況にあ  
 り、全国平均を6.0ポイント  
 下回っています。

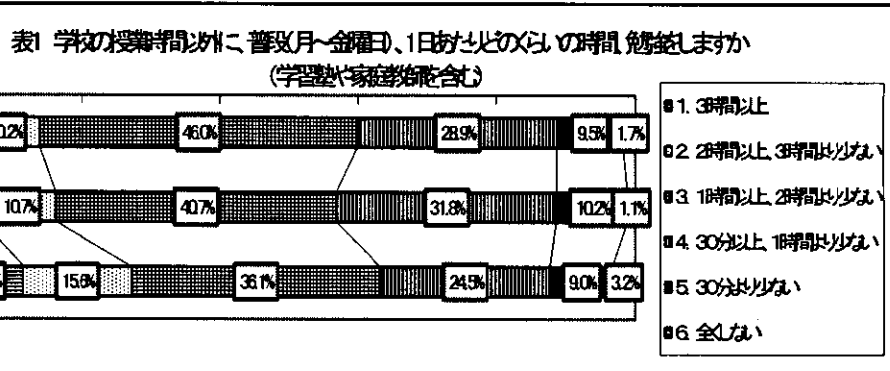
問題を解くために、自分の考  
 えを言葉や式、グラフ、図など  
 を活用して表現したり、説明す  
 ることができる取組が求められ  
 ます。また、宿題や単元テスト  
 にも出題し普段から慣れること  
 が求められます。

【児童質問紙から】

- ① 学校に行くのは楽しいと思いませんか。
- 北斗市 55.0 全道 48.7 全国 52.1
- ② どちらかといえば、そう思う
- 北斗市 33.3 全道 33.4 全国 32.9
- ③ どちらかといえば、そう思わない
- 北斗市 9.4 全道 11.9 全国 10.0
- ④ そうは思わない
- 北斗市 2.3 全道 5.9 全国 4.8

今回、学校に行くのが「楽し  
 いか」を問う設問が始めて盛り  
 込まれています。「楽しい・どち  
 らかと言えば楽しい」の回答で  
 は、北斗市が全国平均よりも3  
 ・3ポイント高い88.3%を示  
 しています。「オール北斗」を合  
 い言葉に北斗市一丸となつて学  
 力等の向上に取り組んでいる成  
 果がみられます。

表1「授業以外の一日当たり  
 の勉強時間」は、H24年に46%



の1時間以上2時間より少ない  
 学習時間がH25年には5.3ポ  
 イント減少しています。市内小  
 中学校で取り組んだ家庭学習に  
 二極化の傾向が表れています。  
 平日にテレビやビデオを「3  
 時間以上」見る43.1%、テレ  
 ビゲームを「2時間以上」する

35.2%で、依然高い傾向にあ  
 ります。家庭生活の見直しが必要  
 なことを示しています。

家で学校の授業の復習をして  
 いる児童は、69.9%になって  
 おり、大幅に増えています。授  
 業の復習が定着しています。

【学校質問紙から】

- ・国語の不得意領域である書く  
 習慣を身に付ける指導をする  
 学校は100%です。
- ・家庭学習の課題(宿題)につ  
 いて、評価と指導をする学校  
 も100%です。
- ・放課後や長期休業日を利用し  
 た学習サポートは、すべての  
 学校で実施され、学生ボラン  
 ティアや地域の方々の協力で  
 効果を上げている学校が増加  
 しています。
- ・授業の最初に目標を提示する  
 ことや、最後に学習を振り返  
 る活動を行っている学校も増  
 加しています。
- ・授業研究を伴う校内研修が大  
 幅に増加し、授業力向上を目  
 指しています。また、少人数  
 や習熟度別、TT指導を実施  
 する学校も増加しています。

小中学校9年間を見直し、学  
 力向上や基本的な生活習慣の確立  
 を目指し、「楽しい・わかる」授  
 業への改善に努めています。

知・徳・体のバランスの取れた  
 向上のため「オール北斗」の目  
 標を、すべての小中学校で取り  
 組んでいます。

以上、小学校の調査結果の概  
 要をお知らせいたしました。

今年、4月24日に北上市の全ての小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の状況をお知らせします。

調査の内容は、国語と算数及び数学について、「基礎的知識・技能」に関する問題A、「知識・技能の活用」に関する問題Bによる学力調査と生活習慣や学習環境等の学習状況調査となっております。

なお、この調査は、国語と算数及び数学のみについて行っていることや「知識」と「活用」にポイントをおいて実施しているため、調査の結果が学力のすべてではなく、一部について示しているものであることをご理解がいます。

【中学校】全国との比較

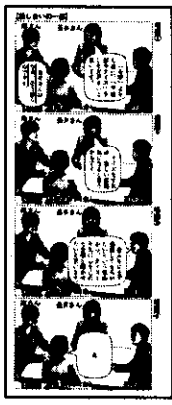
●調査参加生徒数：502名  
本市生徒の状況は、全国平均正答率と比較し、

国語Aは1・4ポイント、国語B・数学A・Bは3・7と5・8ポイント下回りましたが全国との差は、数学Bを除いて縮んできています。

今年度は、過去4回の実施で示された課題の改善状況を確認する設問がみられ同一・類似問題が多く出題されました。  
【国語A 主として知識】

●全国平均正答率76・4%  
学力の定着度がすべての領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均とほぼ同様（下位）でした。

実際に話し合っている場面をイメージできるようにイラストで工夫した左の設問①は、



話し合いで司会の発言の役割として適切なものを選択肢から選ぶ問題で、89・8%と全国平均と同様に高い正答率です。

◆個々の発言の内容を整理して話し合いの方向を捉えて話すことに課題があります。

◆設問②の、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして「○○字以上△△以内で書く」こと条件を示される記述式問題には、課題がみられます。

◆「随筆を読む」設問は、描写に注意して読み、効果を考え内容を理解することで、相当数の生徒ができており、中学1、2年での学習が定着しています。

◆これまで課題とされていた「目的に応じて必要となる情報を読みとめることができるか」を問う設問④は、正答率が63・5%

でした。H22年（小6年）の課題の改善状況をみる設問でもあり、今年度（中3年）は、5・2ポイント上回りましたが、全国と同様課題が残る結果です。

◆文脈に即して漢字を書くでは、「おやつをキントウに分け合う」（均等）の書き取りが全国平均を9・1ポイント下回りました。

◆文脈に即して「読む」は、「異論を唱える」（トナ）「社会を風刺する」（フウシ）が全国平均を上回る高い正答率でした。

◆漢字の楷書と行書の違いを理解し楷書で「板」を書くことは相当数の生徒ができていました。

◆設問⑧の、歴史的仮名遣い「ほい」を現代仮名遣い「おい」に直して読む設問では、87・6%と高い正答率で全国を4・2ポイント上回りました。

◆比較表現は課題が残りました。国語Aでは、H24年に出題された類似問題3問のうち2問が全国を上回る高い正答率でした。

H22年（小6年）の調査結果からも学習指導要領の接続を踏まえ、指導領域・内容の基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる必要があります。

【国語B 主として活用】  
●全国平均正答率67・4%

学力の定着度が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「書くこと」領域で全国平均と同様、「読むこと」領域でやや低い結果となりました。

◆設問②は、文学的な文章（長文）を読み、内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかをみる問題です。

①引用する部分を「」でくくる②感じたこと考えたことを具体的に書く③八十文字以上、百字以内で書くことの三つの条件が示されていますが正答率は、63・5%で無解答率が16・3%と全国平均とほぼ同様で依然として課題があります。

◆設問③は、「いろはかるた」の説明文で、わかったことを書き、さらに調べる方法、情報収集を具体的に記述する設問です。条件を満たした的確に述べた生徒の正答率は53・2%で全国とほぼ同様です。

◆これまで指摘された課題の中から「説明的な文章について、表現の仕方や文章の特徴について注意して読むこと」と関連した設問③は、全国とほぼ同様で60%を割る結果となりました。

また、③の、漢字の特徴を捉えて自分の考えを具体的に書くことができるかを問う設問は、小学校から積み重ねてきた漢字の知識・理解を課題解決のため活用できていた生徒は、65・5%で全国と同様でした。

H24年の類似問題と同様に長

文を根気強く読み取り書く力が低い状況にあります。

その改善策としては①目的や意図に応じ、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選ぶ②示された条件に応じて話したり書いたりする知識・技能の活用力を日常の学習活動の場で定着させることが必要です。

【数学A 主として知識】  
●全国平均正答率63・7%

学力の定着度がすべての領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」で全国平均を下回る低い結果となりました。

◆正負の四則計算や整式の加法と減法の計算は全国平均と同様高い正答率でした。

◆しかし、設問①（4）は、正負の数の意味を実生活の場面に結び付けて理解しているかを見る問題で全国平均を5・2ポイント下回り無解答率も8・8ポイントと高い結果でした。

◆分数の計算は、全国平均を8ポイント下回りました。

◆設問③は、ノートと鉛筆の値段を求めるための簡単な連立二元一次方程式をつくる問題で、相当数の生徒ができていました。

各学校のチャレンジテストの活用や繰り返し学習等の取組の成果がみられてきています。

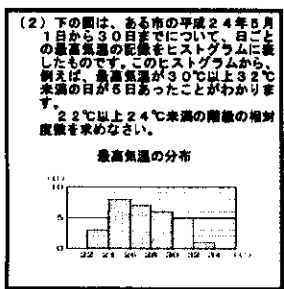
① $5x(4-7)$ 「正答率 88・7%」	② $2(5x+9)$ 「正答率 79・3%」
③ 連立方程式 $\begin{cases} 3x+2y=460 \\ 4x+3y=650 \end{cases}$ 「正答率 7481・5%」	④ $5 \div 8 \times 3 \div 4$ 「正答率 7481・5%」

◆また、②(3)は、数量の関係や法則などを文字式で表す問題で、全国平均の35.0%未満と同様に低く、無解答率も高い結果となりました。

「方程式の解が問題の答えとして適切であるかを調べる」方法の理解力不足や「資料の読み取り」で理由を説明したり、情報を読み取る力が定着していないことに課題がみられます。

◇設問5の与えられた見取図、投影図から空間図形を読み取ることはできており、正答率は82.3%で全国とほぼ同様です。

◇関数の意味を理解しているかを見る設問11(1)と12(1)について、xの値が3のときのyの値を求める正答率は、79.5%ですが、一次関数の変化の割合を求める正答率は全国同様低い結果でした。



左の設問14(2)のヒストグラムから相対度数を求め、数値を求める問題の正答率は19.3%と低く、無解答率があります。小学校の学習内容を振り返り基礎・基本の確実な定着が必要

【数学B 主として活用】

●全国平均正答率41.5%  
学力の定着度が全国平均と比較して、「図形」で同様、「数と式」「関数」「資料の活用」が低い状況でした。H24年と比較し全国の平均正答率が7.8ポイント低下した理由として、過去に正答率が低い問題が出題されていると指摘されています。

◆「与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理することができかを見る」①(3)は、「安静時心拍数が年齢によらず一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を調べ、その理由を説明する」設問で、正答率は、全国とほぼ同様の16.0%の低い結果となりました。

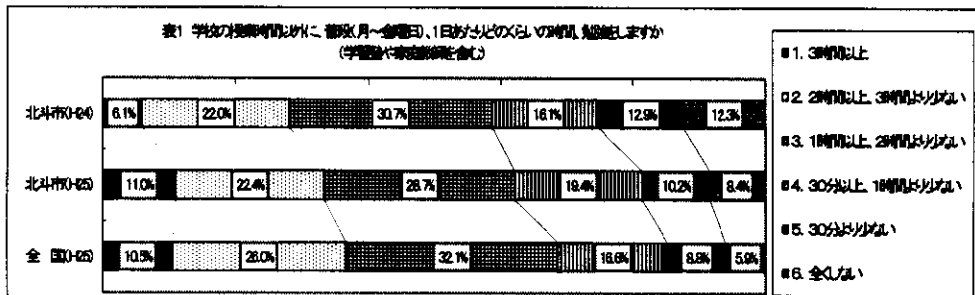
◆④(1)の2つの辺の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明する設問の正答率は、30.1%で全国平均と同様、低い結果となりました。

◆与えられた表やグラフを用いて水温が80℃までになるまでにかかる時間を求める方法を数学的に説明する力が全国同様十分な状況にあります。

◆設問5(2)は、昨年度出題された「ヒストグラム」と同様に情報の適切な選択と数学的な表現を用いた記述式問題の正答率が19.0%無解答率が51.3%と高く全国同様に課題があります。すべての教育活動における言

語活動の充実で情報を読み取り考察やまとめて記述する力を定着させることが必要です。

【生徒質問紙から】  
これまでの学力との関連から生徒の現状を継続して把握し改善点や今後の課題解決に向けて経年の推移をみております。



◇上の表1の平日の家庭学習時間は、H24年との比

「全く」生徒が3人減少し、9ポイント減少し、2時間以上学習する生徒は5ポイント増加し、全国と同様

ほぼ同様で改善が見られませんが、全国的に増加傾向にある「3ポイント以上」の生徒は5ポイント増加し、全国と同様

い「生徒は2.6%でH24年と比べて2.3ポイントの減少です。◇平日にテレビやビデオを「3時間以上」見る生徒は、32.6%でH24年に比べて3ポイント減少し、全国とほぼ同様です。

◇授業の予習」と「授業の復習」は、全国を大きく10ポイント以上上回りました。各校が「家庭学習」や「宿題」を授業に位置付け活用する指導方法や評価に努めています。表1との関連でみると家庭学習の大切さが見えてきます。

◆「長文を読むこと」が難しいと回答している生徒が63%で昨年より2ポイント減少し、「言葉や式を使って説明する問題を最後まで書く」と努力した」は、国語・数学ともに全国よりやや低い結果でした。「家庭での読書時間」は、全国同様少ない状況にあり課題が残ります。

新たな調査項目の「土曜日の過ごし方」では、午前午後と部活動が多く全国とほぼ同様です。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「生徒が低い状況にあります。生活習慣の確立と学ぶ意義や自尊心、職業観を育むキャリア教育の更なる充実が必要で、【小中連携による指導の必要性】平成22年度に学力調査を受け、た6年生が、今回3年生となり平成22年度と関連した内容が出題されています。小・中学校における指導事項の知識や理解の定着が求められています。A問題での国語においては、A問題での

類似問題が2問出題されました。文の接続に注意し伝えたい事柄を明確に書くことや目的に応じて必要な情報を読み取る内容。数学においては、A問題での類似問題が3問出題されました。

・数量関係や法則などを文字式で表すことや図形の内容。本市では、すべての中学校区単位で小学校と連携を図り指導計画の作成や授業交流を通して学力や体力向上に努めています。

【学校質問紙から】  
・家庭学習の課題(宿題)を与え、授業の中で評価・指導をする学校が100%です。  
・学習規律の徹底や生徒の思考力や表現力を高める発問やノート等の指導方法を工夫する学校が100%です。  
・放課後や長期休業日を利用して補充的な学習サポートは、すべての学校で実施し、学生ボランティアや地域の方々の支援が学校教育水準の向上に効果を上げていく学校が増加してきています。

・授業の目標や振り返る活動を計画的に実施し少人数・習熟度別、TT指導を実施する学校が増加してきています。  
○全校校が学校改善プランを作成し、早期の学力調査結果分析で個々の子どもに応じた指導に努めています。「オール北海道」「オール北斗」で、書く習慣と無解答率ゼロで基礎・基本の確実な定着を目指しています。以上、中学校の調査結果の概要をお知らせしました。